

京都市地域支え合い活動創出事業

地域支え合い活動入門講座

高齢者を取り巻く状況と
地域の支え合い活動の推進

南区地域支え合い活動創出コーディネーター

京都市の高齢者を取り巻く状況

○ 65歳以上人口

396,289人(令和2年4月現在)

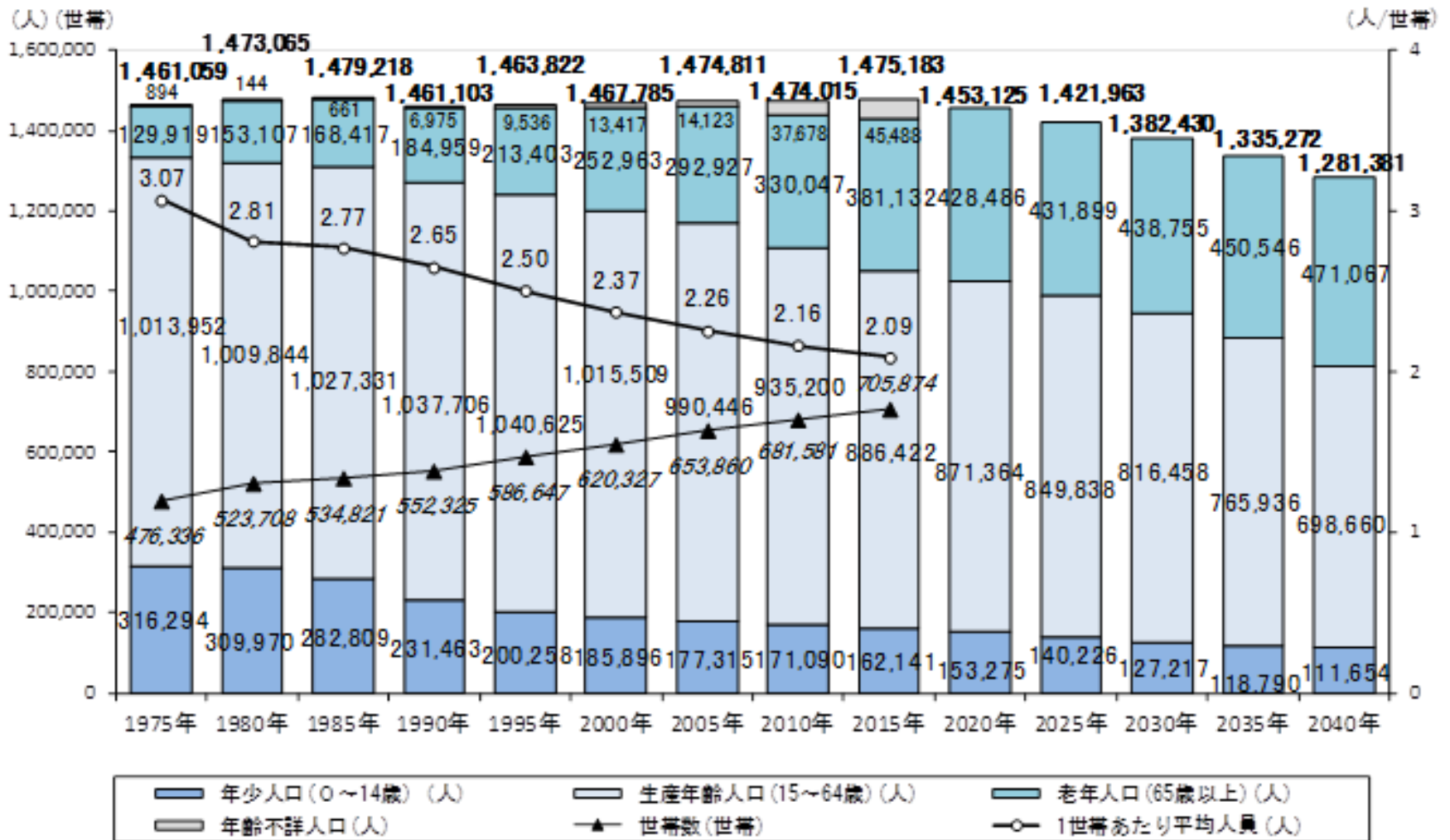
⇒平成12年10月比で約1.6倍

○ 要支援・要介護認定者数

90,152人(令和2年4月現在)

⇒平成12年10月比で約2.8倍

京都市の総人口および高齢化率の推移と今後の推計



資料: 国勢調査(2015年まで)

国立社会保障・人口研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年3月)」(2020年以降)

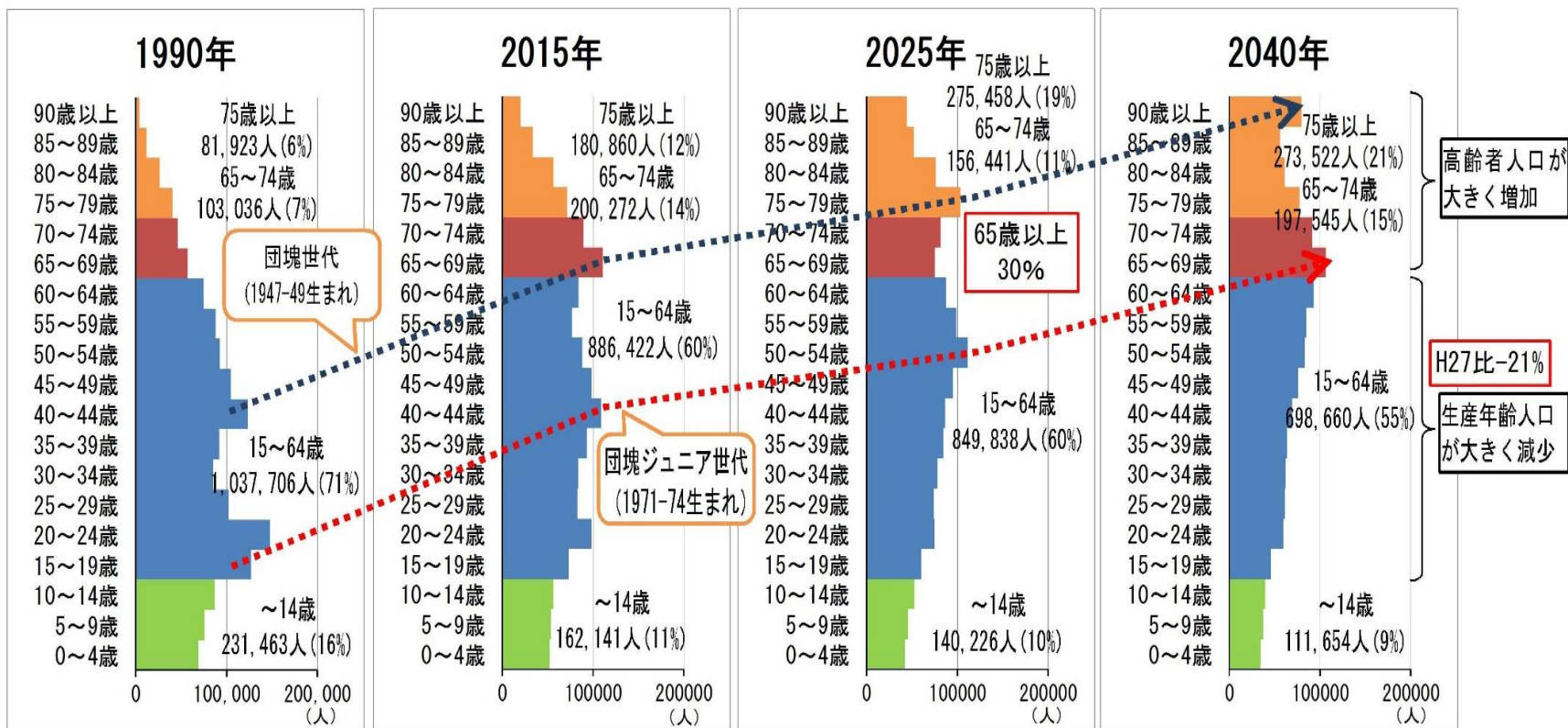
平成37(2025)年の高齢者の姿

平成2年

平成27年

平成37年

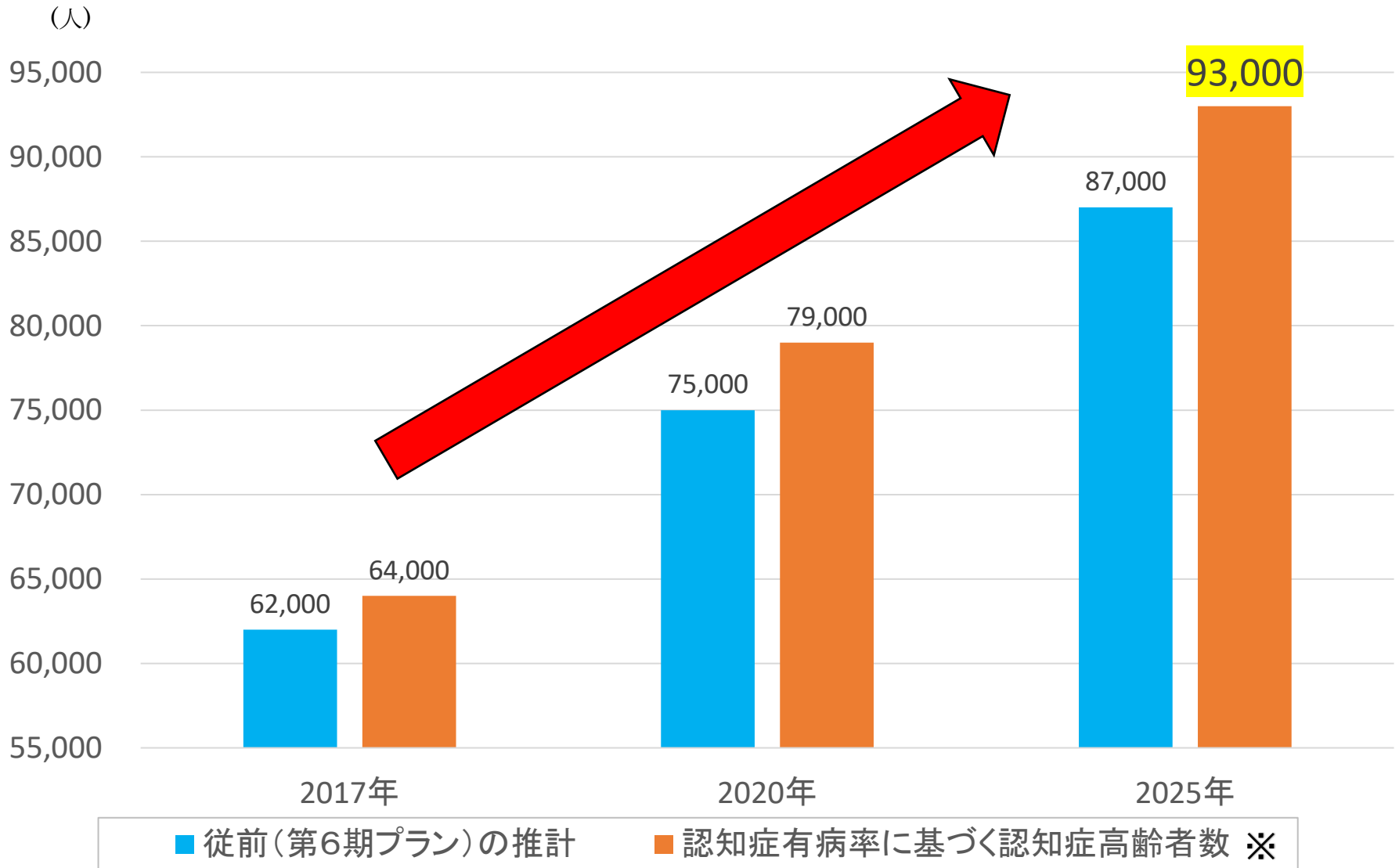
平成52年



資料: 国勢調査(2015年まで)

国立社会保障・人口研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年3月)」(2020年以降)

認知症高齢者が増加し、約93,000人となる



※ 「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究(2014年度厚生労働省科学特別研究事業)」

京都市におけるひとり暮らし高齢者世帯数の推移

	2015年	2025年	増加数 (増加率)
京都市	8万6千世帯	11万1千世帯	2万5千世帯 (<u>28.6%</u>)
全 国	592万7千世帯	700万7千世帯	108万世帯 (18.2%)

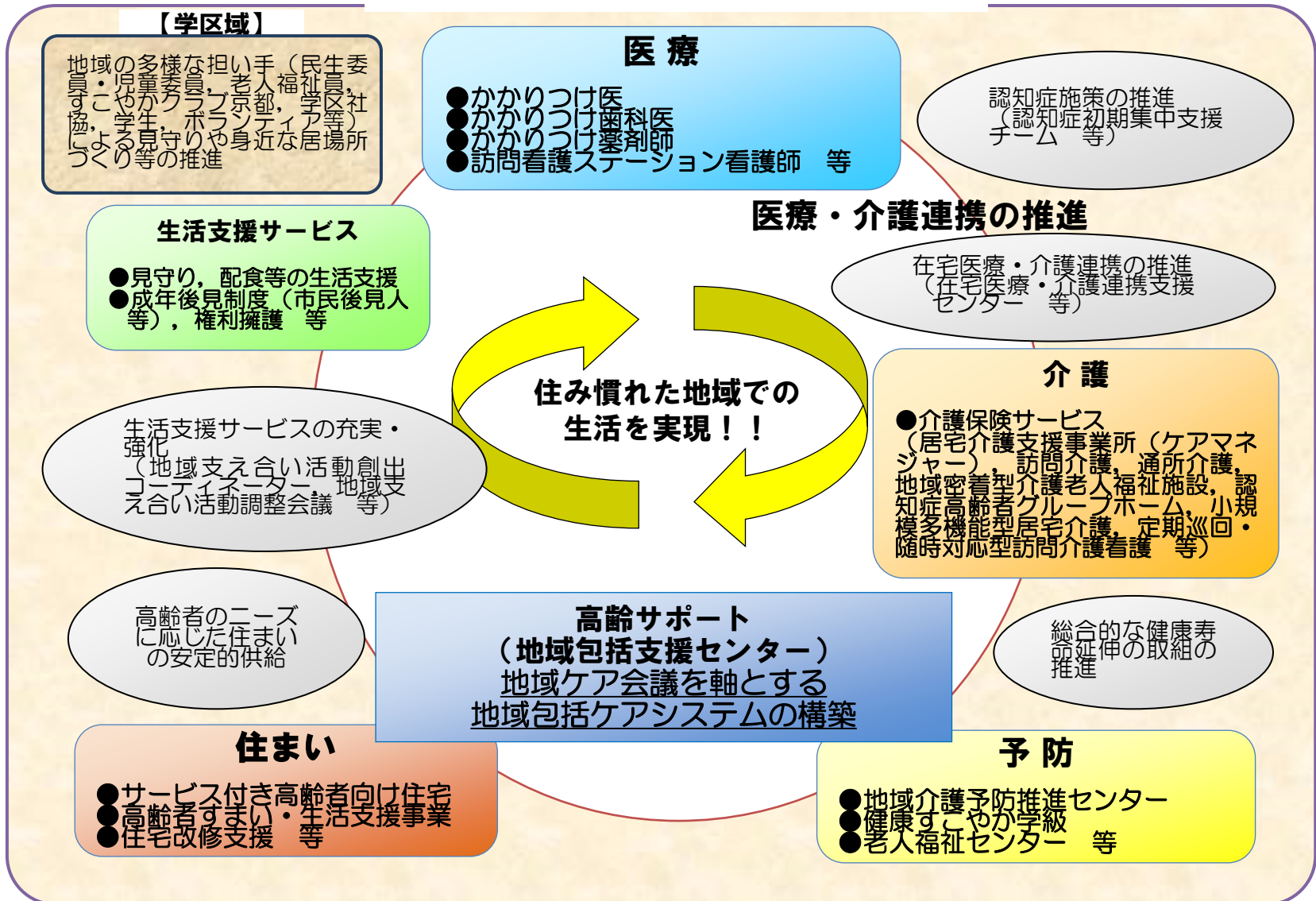
資料:京都市:2015年は国勢調査,2025年は国勢調査を基に京都市保健福祉局介護ケア推進課において推計

全 国:2015年は国勢調査,

2025年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)(2014年4月)」

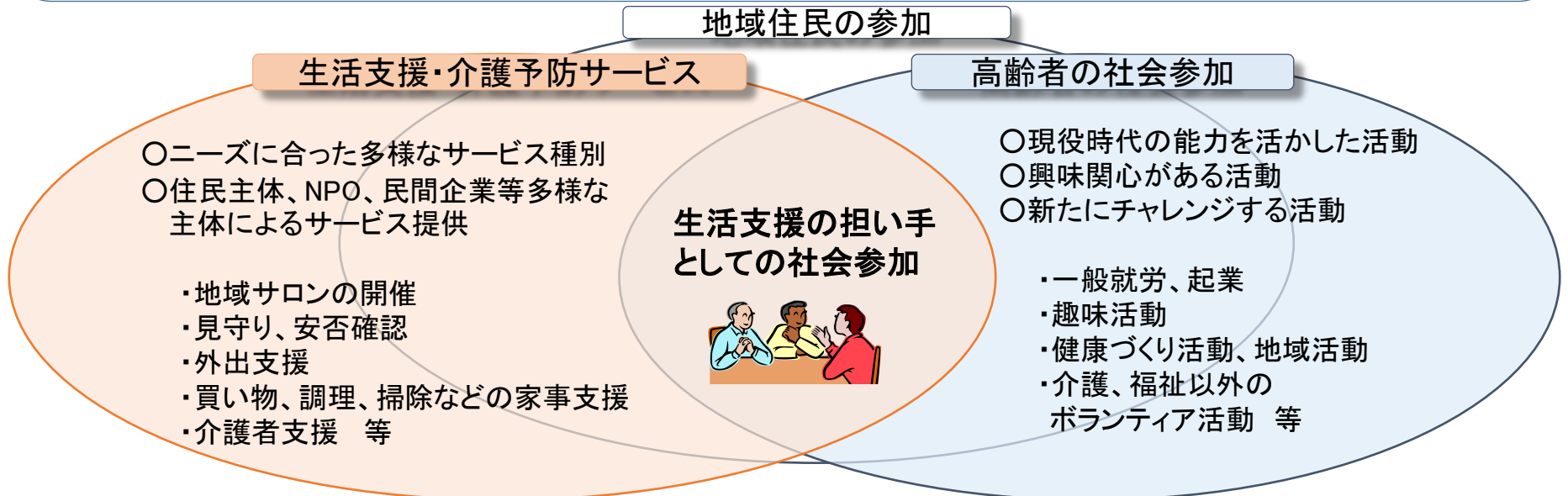
京都市版地域包括ケアシステムのイメージ

【住み慣れた地域（日常生活圏域）】



生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加

- 単身世帯等が増加し、支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、**生活支援**の必要性が増加。**ボランティア、NPO、民間企業、協同組合等の多様な主体が生活支援・介護予防サービスを提供することが必要。**
- 高齢者の介護予防が求められているが、**社会参加・社会的役割を持つことが生きがいや介護予防につながる。**
- 多様な生活支援・介護予防サービスが利用できるような地域づくりを市町村が支援することについて、制度的な位置づけの強化を図る。具体的には、生活支援・介護予防サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う「**生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)**」の配置などについて、**介護保険法の地域支援事業に位置づける。**



バックアップ

市町村を核とした支援体制の充実・強化

バックアップ

都道府県等による後方支援体制の充実

<平成28年度すこやかアンケート結果より>

(問)今、日常生活の中で不自由と感じていることはどんなことですか？

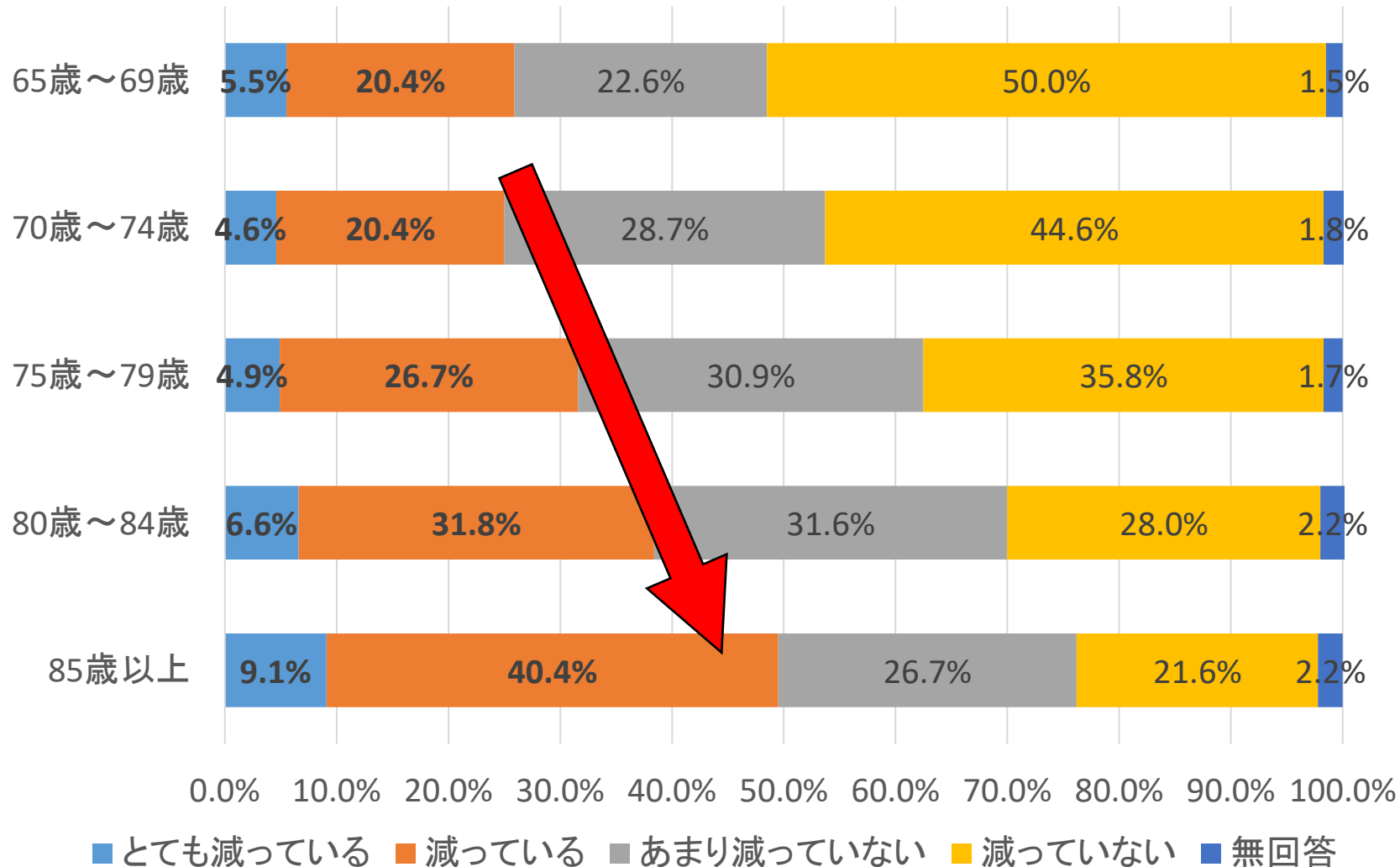
<複数回答:○は1つ>



<平成28年度すこやかアンケート結果より>

(問)あなたは、昨年と比べて外出の回数が減っていますか？

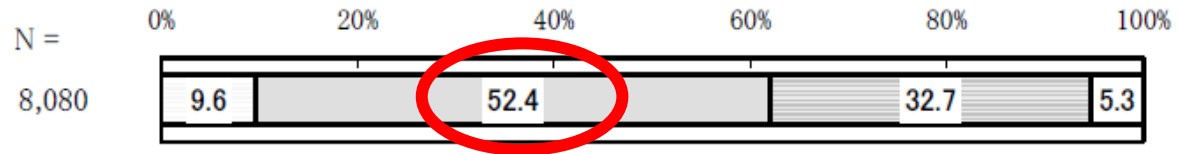
<〇は1つ>



<平成28年度すこやかアンケート結果より>

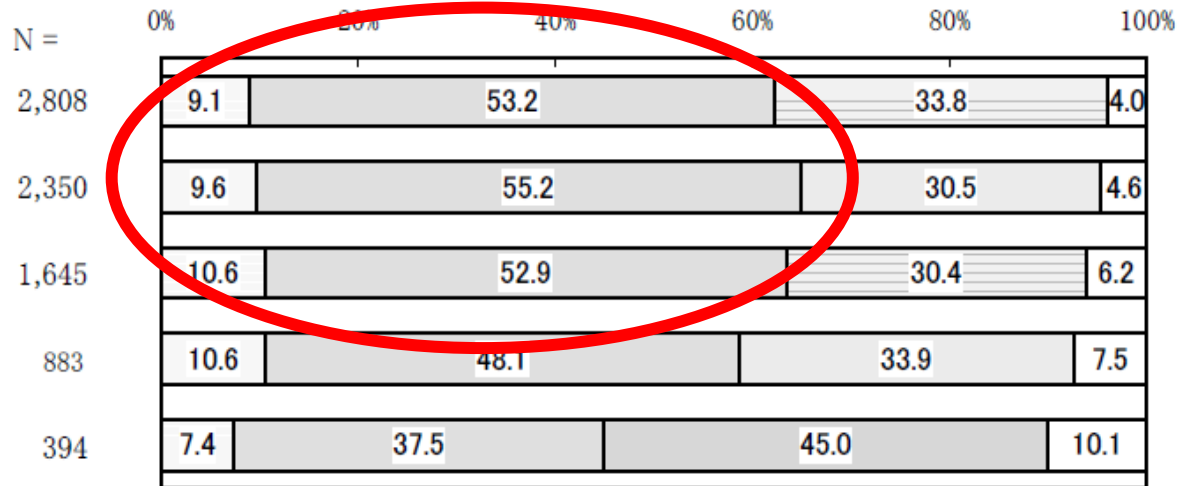
(問) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
 <○は1つ>

是非参加したい 参加してもよい 参加したくない 無回答



【年齢別】

- 65～69歳
- 70～74歳
- 75～79歳
- 80～84歳
- 85歳以上



○京都市地域支え合い活動創出事業

○目的

一人暮らしの高齢者や支援を必要とされる軽度の高齢者が増加する中、多様な生活支援を必要とされる高齢者が住み慣れた地域で暮らしを継続できるよう、生活支援・介護予防サービスを担う多様な主体と連携しながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図ること



この目的のために...

○平成28年5月から各区社会福祉協議会に「地域支え合い活動創出コーディネーター」を配置。

○統括者として京都市社会福祉協議会に「統括地域支え合い活動創出コーディネーター」を1名配置。

○平成29年3月から「地域支え合い活動創出調整会議(協議体)」を各区・支所単位で設置

○平成30年4月、伏見区においてコーディネーター1名を増員

🔍 地域の支え合い活動とは？



困った時に
頼る人が
いない...

ちょっとした困りごと
積み重なると、生活することが大変。

お部屋の掃除や、
ごみ捨てが大変...

買い物に出るのも大変、
出かける場所がない...



地域にはちょっとした困りごとを抱えている人がたくさんいます。
その困りごとさまざまです。



困った時は、
助け合える
人間関係



ちょっとした相談事ができる場や
地域との交流



お互いに、
困ったときは
地域でつながり、
支え合う

身近な地域で、困ったとき「助けてもらったり」、「助けたり」できる関係をつくるのが、
「**地域の支え合い活動**」です。

地域での支え合いを広める POINT



みんなで協力し合いながら活動をひろげる！
(地域住民, 各種団体, ボランティアやNPO, 民間企業等)



地域の「困った, 助けてほしい!」, 「〇〇は得意!
お手伝いしますよ!」というお互いの思いをつなぐこ
とで支え合いの和を広める!



「京都市地域支え合い活動創出事業」 支え合い活動の推進役として、 地域支え合い活動創出コーディネーターが活動！

- ✓ 生活支援の担い手の養成やサービスの開発

- ・南区地域支え合い活動入門講座の実施
- ・サービス創出のモデル実施

- ✓ 関係者のネットワーク化

- ・情報交換会の開催

地域での支え合いの
仕組みづくりに
取り組みます！



南区地域支え合い活動
創出コーディネーター

- ✓ 地域ニーズと資源の見える化、問題提起

- ・地域ケア会議等への出席
- ・地域課題、資源、ニーズの把握
- ・情報提供できる資料の作成（体操・脳トレ・居場所マップ）

- ✓ 多様な主体への協力依頼等の働きかけ
- ✓ 目指す地域の姿の共有意識の統一

- ・地域支え合い活動「連絡会議」「実務者会議」の開催
- ・関連事業への参画